

愛知東邦大学 シラバス

開講年度 (Year)	2024年度	開講期 (Semester)	後期
授業科目名 (Course name)	神経・生理心理学		
担当者 (Instructors)	吉村 道孝	配当年次 (Dividend year)	3
単位数 (Credits)	2	必修・選択 (Required / selection)	選択

■授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

神経心理学は脳損傷による行動や心理への影響に焦点を当て、生理心理学は健常者の中枢神経や自律神経の機能が心理や行動へ及ぼす影響について焦点を当てる。神経・生理という人の基本的な構造やメカニズムや病態の概要を理解する。また脳疾患や外傷など誰にでも起こりえる身近な障害として理解し、適切な接し方や支援方法を習得することを目的とする。将来、専門家を目指す方は、神経心理アセスメントは臨床において重要なポイントであり、状況に応じて多様な対応があることを目指す。

■授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態 (Class form)	講義
授業の方法 (Class method)	講義形式でおこなう。神経心理検査を取り上げることが多く、視聴覚教材を多用する。場合によっては、ペアワークやロールプレイングをおこない援助者と要支援者の両方の立場を学習する。講義で検査をおこなう際には、検査結果や解釈方法、感想などをレポートとして提出する場合もある。レポートがない場合は授業終了前に課題の小テストをおこなう。

■各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	ガイダンス&神経心理学とは何か	神経心理学における重要な視点について学習する。	<input type="checkbox"/>
第2回	脳神経系の構造と機能	神経機能の基礎知識について学習する。	<input type="checkbox"/>
第3回	視覚・聴覚の障害と評価方法	視覚・聴覚の障害の特徴や支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第4回	体性感覚と運動の障害の評価方法	体性感覚や運動の障害の特徴や支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第5回	言語の障害と評価方法	言語障害や失語症の特徴や支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第6回	情動の障害と評価方法	情動障害の特徴や支援方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第7回	記憶の障害と評価方法	記憶の神経基盤や、記憶障害の特徴や支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第8回	注意の障害と評価方法	注意の神経基盤や、注意障害の特徴や支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第9回	遂行機能の障害と評価方法	遂行機能の神経基盤や、遂行機能障害の特徴や支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第10回	高次脳機能障害と認知リハビリテーション	高次脳機能障害の特徴や認知リハビリテーションの種類や特徴、効果について学習する。	<input type="checkbox"/>
第11回	脳波研究・画像研究	脳波計測や画像検査の特徴や注意点について学習する。	<input type="checkbox"/>
第12回	自律神経のメカニズムと測定法	自律神経の種類や特徴、臨床での計測方法について学習する。	<input type="checkbox"/>
第13回	睡眠の生理	睡眠の生理メカニズムや効果について学習する。	<input type="checkbox"/>
第14回	高齢期の問題 (認知症)	高齢期の神経学的特徴や、認知症の特徴や支援について学習する。	<input type="checkbox"/>
第15回	小児・思春期の問題	発達障害や小児の神経心理的機能障害について学習する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)

事前学習: 授業開始前に、授業で扱われるテーマに関わる理論・実験・出来事についてインターネット等で調べてくる。(2時間) 事後学習: 講義を受けて振り返り、興味のあるポイントをさらに深く学習する。不明な点は次回講義の小レポートに記載すること。(2時間)

■課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)

毎回講義後に小テストもしくは小レポートを実施し理解度を確認する。次回の講義の冒頭で疑問点や課題を共有する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	神経心理学と生理心理学に関する基本的な知識を習得し、病態生理や支援方法や対応について説明できる。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	神経心理学と生理心理学に関する基本的な知識を習得し、病態生理や支援方法や対応について説明できる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 毎回、講義後に小テストもしくは小レポートを実施し、理解度を確認する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内容に応じて資料を配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		